

第 1 回「協議会ワークショップ」実施計画（案）

放送大学神奈川サークル協議会 執行役員会

ワークショップの意味と特徴 「ワークショップ」を辞書でひくと、工作・修理などの作業場・仕事場の意味の他に、参加者に自主的に活動させる方式の講習会という意味でも使われています。参加者が自主的に活動することが不可欠で、後者に近い意味で用いられています。この「点検・改善活動」は、産業界では名称や課題は違うものの 1970 年代から行われており、「安全・衛生点検」「清掃点検」「安全パトロール」「5S 運動」などに取り組んでおりました。何となく見ていた光景も「課題」を考えることにより、新しい発見があります。

特徴 1 楽しみながら参加する。（楽しくなければ意味が無い）

「地図にマークする」「スコアーブック（カード）に記入する」「観察する」「写真を撮る」「川柳を作る」など自分の思ったアイディアを表現します。

特徴 2 参加者は自由に発言します。口数は少なくとも偉く絵の上手い人もいます。急に親しみが湧いてきます。

特徴 3 行った経過が記録され、その場で見えるかたちで表現されるので理解しやすい。地図・絵・模型・写真・メモなどが残され、容易に理解できます。

ワークショップの種類 目的に応じ、色々な場面で使われます。

- ・ 課題特定型（特定の課題について検討）危険箇所の有無、美化問題等
- ・ 構想策定型（将来像を描く）新設、改善、アメニティ、バリアフリー、良い所の維持保全等

ワークショップの効果

- ・ 成果が見えるので、達成感がある。
- ・ 再発見の効果がある。（今まで気が付かなかった・気にかけていなかった事が沢山でてくる。）
- ・ 対症療法的解決策ばかりでなく、将来を展望する効果が期待できます。

1・ワークショップの進行プログラム

- 1) 開会挨拶
- 2) 行程の説明・ワークショップ手法の説明
- 3) 全体図の作成（グループ単位）
- 4) 点検結果のグループ発表と質疑
- 5) 点検結果を活かす構想の検討（グラフィックス→文字・イラストによる表現）

- 6) 講評・感想カードの記入
- 7) 閉会挨拶

- ☆ [全体図の事前作成] (最近 Facilitation Graphics と呼ばれています)
地図や配置図等にプロットしてゆきます。この方法は人類の歴史とともにに行われていますが、今なお有効な判り良い方法です。
- ☆ [ワークショップの限界]
 - ワークショップは、時間・場所・参加者が限定され、成果は限られた参加者のみの共有になります。
 - ささやかなことでも出来るところから実現してゆきます。小さな成功を沢山作って行きましょう。

2・ワークショップで重要な視点

- ☆ [危険が判るようにする] → 例：高圧電流、交通上危険な場所等一目で判る事。
- ☆ [隠すこと] → 人間誰でも都合の悪いことは隠したがる。目を瞑りたくなる。
- ☆ [結果は公表すること] → 評価しないと何も変わらず。

3・景観

- 「日本人は美に敏感な国民であるが、醜には鈍感である」という評価があるそうです。
- ☆ [景観の阻害要素を除こう] → 景観のマイナス要素を除くだけでも半ば達成します。
- ☆ [普段見慣れた場所の他、建物の裏庭・中庭なども観察して見よう] → 思わぬ宝を見するかも知れません。